

# だより



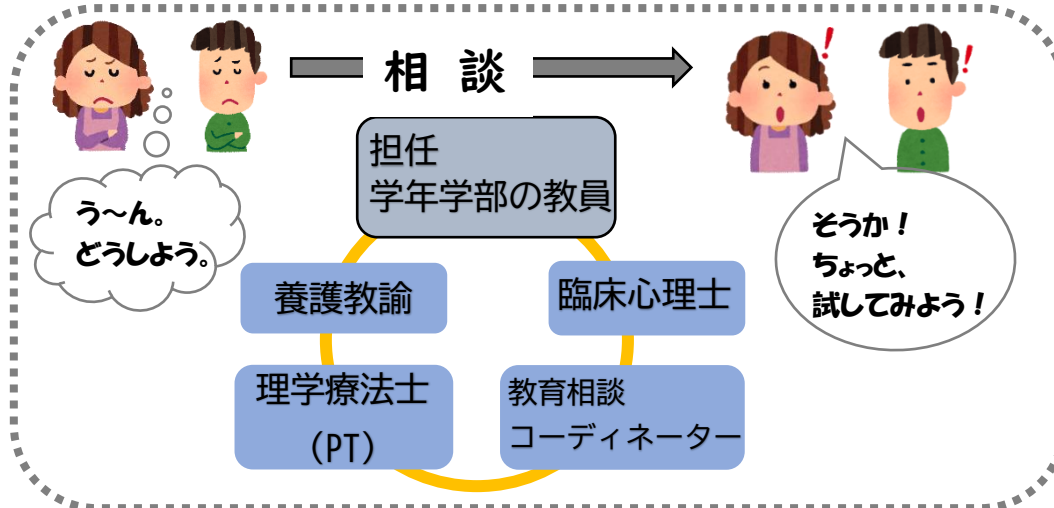
支援連携だより R4・2号  
令和4年 7月 5日  
小田原養護学校 支援連携部  
題字:高 A2年生徒作品

あっという間に梅雨が明け、真夏のような毎日ですね。高等部では、実習期間も無事終わり、校外学習も各学部学年で行われています。

今回は「学校での相談について」と「ボランティア講座」の2つの特集をお届けします。



## 小田原養護学校での相談について



お子さんについて、不安や心配なこともあるかと思えます。

そんな時、担任や学年・学部の教員以外にも、色々な立場の教員が、相談をお受けすることができます。

### 臨床心理士 宇佐見大輔 小田原校舍第3職員室

臨床心理士は、お子さんの発達やコミュニケーション、望ましい行動の増やし方などについて、担任の先生と協力しながら考えていきます。お子さんのことで気がかりなことがありましたら、お気軽にご連絡ください。

- 子どもにどう接したらいいのか？
- 学校に行きたがらないんだけど…。
- 困った行動を減らして、望ましい行動を増やしていきたいんだけど…。

### 理学療法士 小玉美津子 小田原校舍第3職員室

理学療法士は、身体の動き、姿勢、ポジションイング、介助方法、車椅子などの補装具、日常生活用具に関すること、学校生活、家庭生活での困りごとについて担任と一緒に考えていきます。また地域の担当PTとも連携しながら、お子さんのことをサポートしていきますのでお気軽にお話ください。

### 養護教諭 <小田原> 森鮎美・遠藤朝霞 <湯河原> 大泉徳子 <大井分> 高橋祐美 各保健室

保健室はいつでもだれでも利用することができます。

身体や心の健康のこと、成長のこと、日ごろ困っていることなど、なんでもご相談ください。「相談したいけれど、どこに相談したらよいかわからない」といったことでも、お気軽にお話ください。

お子さんたちが元気に学校生活を送っていただけるように、サポートしていきます。

### 教育相談コーディネーター <小田原> 梶山繭子・佐川英之 <湯河原> 唐牛恵梨

小田原校舍第3職員室・湯河原校舍職員室

教育相談コーディネーターは、より良い学校生活、地域生活のために担任と協力しながらお子さんを支えていきます。地域の相談機関（相談事業所・療育関係機関・児童相談所等）とも連携しています。何かありましたら、お気軽にご相談ください。

# ボランティア講座を行いました！

## 障がい児支援ボランティア講座とは…？

小田原市社会福祉協議会さんと共催で行う、障がいのある子どもたちのいろいろな活動を支援するボランティアさんの育成講座です。障がいのある子どもたちについて、話を聞いたり、養護学校の授業を見学したりして理解を深めます。

コロナで中止されていましたが今年度開催することができ、7名の方が参加しました。第1日目は「障がい者の理解」「教材について」の講話、第2日目はボランティアに入る授業の見学、第3日目はよるべ会わらべの杜の東海さんによる講話、現ボランティアさんとの懇談会を行いました。

## 参加者の皆様の声

この講座への参加のきっかけは、「自分でも何か役に立ちたい。何かできることはないか。」という方が多かったです。第1日目の講話が始まるまでに、「申し込みの時緊張した。」「私に何ができるか不安…」とお話してくださった方もいらっしゃいました。ですが第2日目の授業の見学をしていただくと、「みんな可愛くてボランティアで参加するのが楽しみ！」「川の音、草や土の感触などに、子ども達が楽しんでいる様子がよくわかった」等、ボランティアを楽しみにされていました。第3日目には、「子どもたちがみんな可愛かった。」「実際目で見られて今後の一歩につながります。」「知識を深めていきたいです。」と参加してよかったという声が多くあがりました。



## ☆現在のボランティアさんの活動状況☆

現在、小田原養護学校では23名の方がボランティアとして活動してくださっています。ボランティアに参加する2週間前からの検温など感染症対策にもご協力していただいております。

活動場面は主に小Aの「山道歩行」や「集会」「体育」等の授業で、児童と共に手を繋いで歩いたり活動している児童の見守り等をしていただいたりしています！

## 現ボランティアさんのお話

第3日目の講座の中で現ボランティアさんとの懇談会を行いました。ボランティアを始めたきっかけやボランティアで今取り組んでいることをお話していただきました。

お話の中でボランティアの活動の中で1番嬉しかったことも話してくださいました。小学部の時に同じクラスで活動していたけれど関わるのが少なく「私のことは覚えていないだろうな」と思っていた子が、中学部になった時に教室から出てきて名前を呼んでハグをしてくれたそうです。名前も覚えていてくれ、また廊下を歩いている姿から思い出してくれたことがとても嬉しくてその日のボランティアは涙を堪えながら活動したとお話してくれました。

小学部で関わっていた児童が、中学部や高等部になり大きく成長する姿を校内や街中で見かけるたびに、「大きくなったね」とうれしく感じるそうです。自分の子ども以外に成長を嬉しく感じることはあまりないためそれを感じるができるボランティアはとても楽しいとお話されていました。